



日本国天皇皇后両陛下
主催
宮中晩餐会における
フィリピン共和国大統領
スピーチ

2026年5月27日
東京 皇居

天皇陛下、皇后陛下、高市早苗内閣総理大臣閣下、ミレーン・ガルシア＝アルバノ駐日フィリピン大使、遠藤和也駐フィリピン日本大使、フィリピンおよび日本代表の皆様、ご来賓の皆様、こんばんは。

フィリピン国民を代表して、私、妻、そしてフィリピン代表団全員に対し、日本国天皇陛下および皇后陛下から賜りました温かいおもてなしに対し、心より感謝申し上げます。

皆様の温かい歓迎は、この場の重要性を示すだけでなく、フィリピン人と日本人の間の絆をも表しています。

今年は、フィリピンと日本の国交正常化から70周年という記念すべき年です。

公式な関係にとどまらず、両国の絆は、政府だけでなく、違いよりも相互理解を、分断よりも友情を、孤立よりも連携を選んできた、フィリピン人と日本人の何世代にもわたる人々の歩みによって築かれてきたものです。

70年以上にわたり、次々と続く人的交流と多岐にわたる協力が相まって、両国の二国間関係は、インド太平洋地域において最も活力に満ち、将来を見据えたパートナーシップの一つへと変貌を遂げました。この関係は、共通の価値観に根ざし、相互の信頼と有意義な協力によって強められ、平和、繁栄、発展に向けた共通のビジョンに導かれています。

春から初夏へと移り変わるこの穏やかな季節の変わり目に、新鮮な緑が風景を彩るこの「新緑」の季節に、日本を訪れることができ、私たちは特に嬉しく思っています。再生と継続、そして静かな強さを象徴しており、年を重ねるごとに成長し、実り続ける関係にふさわしい比喻です。

ちょうど今年の今頃、フィリピンは、ホスト国である日本からの真摯かつ献身的な支援を受けながら、大阪万博でのナショナルデー祝賀行事の準備を進めていました。

フィリピン館は、わが国の文化、伝統、そして創造性を生き生きと紹介する場となりました。また、世界中からパートナーや友人たちを誇りを持って迎え入れ、イノベーションへの開放性と、持続

可能で人を中心とした未来を築くという私たちの取り組みを祝う場ともなりました。

両国間の揺るぎないパートナーシップは、信頼、相互尊重、そして共通の目的を基盤として、今後も発展し続けています。

日本は、開発、安全保障、インフラ、農業、交通網の整備、レジリエンスの強化といった分野において、フィリピンにとって最も重要なパートナーの一つであり続けています。また、日本在住のフィリピン人が、日本の社会と経済に有意義な貢献をしていることを、私たちは誇りに思っています。

オフィス、教室、工場、研究所、そして地域社会において、両国民の絆は私たちの友情の基盤を強固なものにし、相互理解の架け橋を築いています。

豊かな時も困難な時も、日本は常にフィリピン国民と肩を並べて歩み、必要な時に連帯と支援の手を差し伸べてくださり、私たちはいつでも頼れる友人がいると確信することができました。

もちろん、その精神は今後も揺らぐことはないでしょう。現在、私たちの協力は、海上安全保障、人道支援、そして地域の安定へとさらに広がっています。エネルギー・食料安全保障、宇宙協力、デジタルトランスフォーメーション、新興技術、気候変動対策、そしてイノベーションの分野において、協力を拡大しようとしている今、その展望は広大です。

私たちは共に、平和と国際法に基づくルールに則った秩序への揺るぎない献身を再確認し、将来の世代のために安定、繁栄、そして尊厳を確保するとともに、海洋民主主義国としての価値観と責任を堅持してまいります。

フィリピンは、日比間の戦略的パートナーシップがますます強固なものとなる中、これを両国だけでなく、より広範なインド太平洋地域にとっても有益な力として活用できるよう、日本と緊密に連携していく所存です。

天皇皇后両陛下、内閣総理大臣閣下、ご来賓の皆様

ここで皆様に、乾杯のご唱和をお願いいたします。

- 日本国天皇陛下および皇后陛下の
末永いご健康とご多幸と
- 信頼と共通の目的を礎として、
日本政府および日本国民とのパートナーシップが
さらに深まることを願い、
- そして、フィリピンと日本の不変の友情が、
毎年新たな希望を携えて巡ってくる四季のよう
に、将来の世代のために末永く繁栄することを
祈念いたします。

乾杯。マブーハイ！